

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900022	事業の開始年月日	平成18年10月1日	
		指定年月日	平成18年10月1日	
法人名	医療法人社団 裕正会			
事業所名	グループホームウエルケア新羽			
所在地	( 223-0057 ) 横浜市港北区新羽町2153番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お誕生日会にて手作りケーキ、手作りのプレゼントでお祝いして外食をしたり出前をとったり、コンサートをご家族や他のグループホームの方々と観賞され、歌の会月に3回、音楽療法月に1回に参加され笑顔のある光景がホームいっぱいにあります。地域の特別支援学級の小学生との交流、中学生実習体験の生徒達に囲まれ、皆で楽しく身体を動かし、大声での笑い声が聞かれ大いに楽しまれています。春はお花見、夏にはスイ割後試食、浴衣・甚平を着て納涼祭に家族と一緒に盆踊りに興じたり、秋には地域の運動会に参加され、たくさんの野菜を頂いたり、冬には家族を招いてクリスマス会、秋祭りを開催する等、季節に応じた生活を満喫されています。重度化の対応、看取りの対応として、主治医、訪問看護師、介護者が重度化方針、看取り介護計画書に基づき、共通したケアの考え方を持ち、連携を取りながら支援していく体制が整っている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年11月22日	評価機関 評価決定日	平成26年2月5日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞  
 ◇安心の医療とケアのバックアップ体制  
 ・医療連携体制加算の指定を受け、協力医と看護師の24時間対応体制がある。内科、精神科、歯科の往診と毎週訪問看護師の健康管理体制が整備されている。  
 ・系列の介護老人保健施設が同一地域にあり、食事（主菜、副菜）の配食、研修、防災備蓄で、当事業所に協力・支援をしている。  
 ・重度化や終末期には、本人、家族の意向を踏まえて、医師、看護師、職員が連携して終末を迎える体制が整い、すでに15例の看取りの経験がある。  
 ＜事業所が工夫している点＞  
 ◇地域との交流  
 ・町内会に加入して、利用者は運動会や、ちびっ子相撲、移動動物園などを見物している。地域の特別支援学級の小学生が遊びに寄り、中学生が職業体験で来て交流している。音楽療法や音楽学校生が来てコンサートをやってくれる。  
 ・系列老健施設の納涼祭には利用者も参加し、地域の方と交流している。  
 ◇個別支援  
 ・利用者のADL（日常生活動作）が低下する傾向の中で、意向や状態を考慮しながら、外出、入浴、排泄、食事介助などでその人らしく過ごせるように、職員間で話し合い知恵を出して個別支援に努めている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームウェルケア新羽
ユニット名	新羽2丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念（一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりある生活）を掲げ、理念が常に介護現場で活かされるよう個別支援のありを会議の場で話し合いをしている。	・法人理念「大切な人だから・・・一人一人を尊重し、明るく家庭的なゆとりのある生活」を実現するために事業所の年度目標「一つ屋根の下で心ひとつにサービスの向上に努める」を定めている。 ・法人理念と年度目標を事務所に掲げて、日々の業務の中で実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、散歩の際には地域の方々と気軽に挨拶を交わし、近隣の小・中学校の生徒との交流を行い地域とのつながりが利用者の楽しみになっている。	・町内会に加入し、利用者は運動会、ちびっこ相撲、移動動物園などを見物し、小学生が遊びに、中学生が職業体験で来て利用者は交流を楽しんでいる。その他音楽、朗読、傾聴のボランティアの来訪も楽しみにしている。 ・隣接する緑道を散歩しながら近隣の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緑道の整備に来られた近隣の方々、ボランティアの方にお茶を飲んで頂き交流を深め ホームで過ごされる利用者の支援の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同地域同法人のグループホームと合同で開催している。運営や課題について評価・助言をいただき運営に反映するよう検討し実践している。又グループホーム間でのサービスの実際等を聞く事によりサービスの向上に活かされている。	・運営推進会議は法人内の近隣3事業所と合同で2か月に1回開催し、活動状況を報告し医療連携などについて意見交換をしている。 ・町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、訪問看護ステーション管理者、家族が参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のケースワーカーと利用者の暮らし方を相談し助言を得ている。区のグループホームブロック会に参加し区の担当者から介護保険情報や区の取り組みなどの話を聞いている。	・港北区役所には介護保険認定更新申請支援時に事業所の近況を伝えて助言を得ている。 ・区主導のグループホーム連絡ブロック会に参加し情報交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を会議の場で話をしており、過去にも身体拘束をしたことはない。外出をしたい方にはその都度付き添い対応している。	・身体拘束をしないことの外部研修に参加した職員が、その内容を会議で報告して職員間で情報を共有している。 ・玄関は交通量の多い道路に面しているため、安全上家族からの要望もあり施錠しているが、ユニット入口や居室は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議にて管理者より利用者の処遇について話があり、虐待防止の徹底をしている。職員も虐待の研修に参加し職員同士が注意しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し会議にて報告している。入居相談の際に状況により話している。現在必要性のある方はいないが、継続的に制度の勉強を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利、義務を明示し入居する前の面接及び入居時に丁寧に説明し本人及びその家族に理解同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望を聞くための意見箱を玄関に設置している。家族の面会時には要望や意見を聞きケアプランに反映するようにしている。又家族会での意見交換や必要に応じての家族カンファレンスでケアに対する意見を聞き反映している。	・家族の来訪時や年2回の家族会や、運営推進会議への家族代表の参加などの機会に、家族の意見や要望を聞いている。 ・クリスマスなどの家族が参加した行事では、終了後に意見を聞いて次回の企画に反映するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で職員と意見交換し意見や提案を反映するようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者は職員から定例会議や年2回の個人面談で意見や提案を聞いている。日常の業務中でも意見交換をの中から、職員から改善提案書の提出を受けることもある。</li> <li>・ウッドデッキの段差解消やクッションマットを活用して利用者の身体的負担を軽減して体位交換をする、などの提案もうけて改善した。</li> </ul>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を大切にしている。法人内の勉強会への参加など法人の資源を活用し向上心が維持できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人介護老人保健施設・グループホームとの合同コンビテンシーを実施、外部研修（ブロック会）に参加し向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会のブロック会に出席、運営推進会議に同地域のグループホーム管理者を招くなどして情報交換・収集を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集を十分に行い本人の希望や要望を把握し環境に慣れるためのプランを作成。生活の様子を職員が寄り添い把握し不安がないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、必ず本人面談を家族同席のうえ実施し、積極的に家族との関わりを持ちながら利用に結びつけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で状態に応じグループホームでの支援以外の施設サービスを提案するケースもある。状態、希望、家族環境を軸に的確な支援を考えグループホーム入居、在宅サービス、他の施設サービス入所かを良く相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の声掛けや、自発的「手伝おうか」に家事（食器拭きや洗濯物干し、洗濯物の取り込み、掃除等）を行っていただいた時にはねぎらいの言葉をかけ感謝の気持ちを伝えている。昔の話や生まれ育った故郷の話や聞いた話、礼儀の説教を受けたり、職員も一緒に過ごす喜びを感じている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には家族も招待し利用者、職員と一緒に楽しんでいる。毎月、報告書にて近況を報告し、状態の変化がある時には電話で様子を伝え介護方法を伝え相談し時には家族に手をかりて理解を得ながら支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話での会話や、年賀ハガキ、ハガキによる近況を希望により行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の友人、知人が訪ねて来ると居室や居間で湯茶を接待して、歓談を支援している。</li> <li>・家族からの電話を取次ぎ、年賀状はイモ判を作って押し、宛名を代筆するなど、馴染みの人との交流を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌の会（毎週）、誕生会、家族を招待してのクリスマス会、秋祭り、外食等を皆で楽しみの機会を設けている。日常の散歩や家事等を行う中で職員は利用者の中に入り交流の機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族への十分な説明・納得いただきながら退去先の支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動から一人ひとりの希望や思いを把握している。コミュニケーションが困難な場合は表情や仕草で判断し支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時のアセスメントで、家族や本人から家庭での生活状況を聞き、入居後の生活支援の参考にしている。</li> <li>・毎日の生活の中で、それとなく本人の思いや意向を聞き取り、言葉での把握が困難な利用者には、表情や仕草を観察し、意向を汲みとって支援している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に説明を行い本人が以前使用していた家具や馴染み深い物を持ち込んで頂くようにしている。また本人、家族より生活歴や直近の様子を聞き把握し必要に応じサービス利用の事業者より情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い記録している。日々の利用者の精神状態・心身状態を観察し、申し送りにて情報を共有している。活動性の低下に十分注意を払い一日を安全安楽に過ごしていただくように見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を家族、職員と話をし6ヶ月ごとに見直ししている。急な変化が見られた場合はカンファレンスにて検討し見直ししている。(必要に応じファミリーカンファレンスを行う。)	・毎月のカンファレンスで介護計画実施状況の確認をし、職員間で情報交換の後モニタリングし、家族の希望や医師の意見を入れて、新たな現状に応じた介護計画を作成している。 ・介護計画は6か月毎に、変化があればその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活確認表、ケース記録を毎日、一人ひとりの様子を具体的に記録している。月に一度気づきをもとに全利用者のカンファレンスを行い1ヶ月後評価し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の重度化に対応するため外部研修(法人内)を行い実践している。そして訪問看護師とも協働し医療の必要度が高くなった場合も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内にて地域の合唱団のコンサートや中学生の課外実習の受入、特別支援学級の小学生との交流、地域から運動会、バザーの催物へのお誘いを受け楽しみのある生活の支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望により応じているが、現在は全員が家族の納得と同意のうえで協力医療機関で受診している。急な体調の変化や専門医への受診が必要な場合も職員が通院の支援をしている。	・医療機関は本人、家族の意向で、現在は全員が協力医を受診している。 ・内科が月2回、精神科が月1回、歯科が月2回の往診があり、歯科衛生士は週1回利用者の口腔ケアに来ている。同一法人傘下の訪問看護ステーションとは24時間連絡体制が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の介護老人保健施設の看護師へ相談、契約訪問看護ステーションの看護師とはいつでも連絡がとれ相談、訪問対応をしていただいております。週一度以上は訪問による健康状態の管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に職員がホームでの生活状況を伝え、病状経過をの説明を十分に行い、家族と治療方針や退院の目処を聞き、病院の医師、家族、訪問診療医、訪問看護師と状態の相談をしながら早期退院ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針を定め本人及び家族に説明し同意を得ている。本人、家族、訪問診療医師、訪問看護師、介護者が指針に基づき共通したケアの考え方をもち、連携を取りながら支援していく体制が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化対応指針に基づき入居時に本人、家族に看取りを含め支援内容について説明し同意を得ている。</li> <li>・これまでに看取りは15名の経験があり、職員の意識も体制も整備されている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人のグループホーム研修で急変時、事故発生時の対応をテーマに取り組みを行った。訪問看護師も参加しマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練（通報、消火、避難）を行っている。（1回は夜間想定）地震の訓練も同時に行い直近は11月に実施した。消防署の立会いをお願いしている。法人内で災害時マニュアルがあり同地域にある同法人事業所と協力体制を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署が立会い、内1回は夜間想定で訓練している。</li> <li>・同一法人内同地域3事業所とは災害時協力体制はあるが、近隣住民の参加連携は、まだ得られていない。</li> <li>・災害時用備蓄は、非常用食料・水が3日分と排泄用品および防寒備品類を備蓄している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会にも加入しているので地域住民と連携を図りながら、災害時対策に理解を求め、例えば土・日に避難訓練を行う等の工夫もして、近隣住民との協力体制を築いていくことを期待します。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念と、笑顔で心地よい言葉かけを心掛けている。利用者の個性を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように注意している。	・職員は個人情報保護、プライバシー確保について法人内研修を受け周知している。各行事の写真は個人情報の観点から、フロア壁面に飾らず、利用者別にアルバムを作成し、利用者や家族には居室で見てもらっている。 ・利用者への言葉使いには特に配慮し、気になる場合は管理者はその場で注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一律に同じ事をせず、個々の意思に任せた生活を送っていただいている。介護者は日常の中から本人の行いたい事を見極め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者の希望により、散歩、昼寝、TVを見たり個々のプランターの花の手入れ、体操やゲームをしたりしている。散歩は天候により行けない事があるため室内で出来る事を考え納得いただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れがある場合は、自尊心を傷つけないように気配りをし、居室で直すなど配慮している。外出の際は好みの服に着替えおしゃれをして出かけている。訪問理美容を利用するなど身だしなみには気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑でとれた野菜や利用者希望の季節の食べ物（おはぎ・手づくりお団子・お赤飯）行事食おせち・七草粥・紅白饅頭・ご当地のメニューの沖縄ソーキソバなどが食卓に並んだりして楽しい食卓です。食器拭きのお手伝いをお願いし職員と一緒にいきます。	・食事は、主食、味噌汁は事業所で作り、また、季節ごとに、おはぎ、お団子、七草粥などを作って楽しんでいて、おやつは利用者と職員と一緒に季節の物を手作りして楽しんでいる。 ・できる利用者は、配膳、後片付けを職員と一緒にやって楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量はチェック表に毎日記録している。献立は法人内の介護老人保健施設の管理栄養士が作り、主菜は施設より配食され栄養バランスの取れた食事を提供している。嚥下、咀嚼状態によりお粥、やわらか食、ソフト食、トロミ等形態を代えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯ブラシが使えない方には、ガーゼ・スポンジを使い介助している。歯科衛生士の助言にて口腔内が柔らかくなり飲み込みがスムーズになるようアイスマッサージを実施し効果（2名）を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により把握する事で定時のトイレ誘導を行いサインや仕草を見てトイレ誘導など自立支援をしている。声掛けによる失禁の軽減を図り、リハビリパンツから綿パンツに変更できる支援に努めています。	・事業所では可能な限り、オムツを外すことを目指している。オムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと移行した成功例もある。 ・夜間は利用者の状況によりポータブルトイレを居室に置いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操等の運動、下剤の内服のみに頼らず、水分摂取、牛乳、ヨーグルトを使った食べ物で工夫している。また便座に座られた時、お腹をマッサージしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調を考慮しながら最低週2回以上の入浴を行っている。立位、座位の取れない方には職員が2人対応し、体調不良等で入浴ができない場合には清拭や足浴にて清潔の保持に努めている。	・事業所では個人の入浴習慣を尊重しており、週2回以上の入浴を支援している。一人での入浴希望者には、そっと見守ることで安全入浴を支援している。 ・浴室では洗う体制が取れない利用者には職員2名で支援し、体調により入浴ができない場合でも清拭支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクリエーション、体操、入浴等で生活のリズムをつくり、活動性を上げ安眠につなげている。昼食後は休息の時間を設けそれぞれ自由に居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個人服薬情報があり、職員は随時確認している。また処方に変更がある場合も申し送りを徹底し確認している。服薬マニュアルがあり与薬には十分気をつけている。薬ケースに変更した薬の名前、効能のメモを貼り周知し、申し送りノートに記載し確認しサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物をたたんだり、食器拭きを行っていただいている。プランターの花の水やり、週1回歌の会、月一回の音楽療法を行い楽しめる時間の提供をしている。又利用者同志で手作りのホットケーキ、団子、おはぎ、わたあめを作り喜んで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外気浴や近隣散歩を行っている。利用者の希望に応じ買い物、地域で行う行事（運動会やちびっ子相撲、移動動物園等）に、法人内の介護老人保健施設で行われる音楽コンサートに出掛けたり納涼祭、秋祭りには家族と参加し楽しんでます。	・事業所はせせらぎ緑道に隣接しており安全に散歩することが出来る環境にある。 ・個別に買い物や、銀行への付き添いを行っているほか、遠出の外出希望にも応え、その際は下見を行ったうえで案内している。 ・地域との関わりが深く、地域の各行事に招待を受け、様々な年代との交流も盛んである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了解を得てホームで管理しているが買い物に行った時には、個々にレジ等で支払いを行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を必要に応じて利用していただいている。年賀ハガキ、ハガキ、切手をホーム内に用意し、本人と一緒に手紙の投函等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間兼食堂の共有空間は家庭的で壁には昔なつかしのポスターや塗り絵があり季節ごとの装飾品で季節感を採り入れている。床暖房設備、加湿器を設置し、心地よく過ごせる家庭的な雰囲気作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東南に面した居間には来訪した小学生などの交流写真や手紙、利用者の作品を飾り、季節を感じたり話題づくりに配慮した空間となっている。</li> <li>・ベランダでは利用者がプランターで花を育て、庭の一隅にある畑では野菜を育てるなど憩いの場となっている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や椅子、テーブルの配置を工夫し個々に心地良い居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者好みの、寝具、箆笥、机、椅子、鏡台、一人一人思いのものが、家族とも相談しながら居心地の良い部屋づくりをしている。ドアを開放しても部屋の中が見えぬようお気に入りの色ののれんをかけるなどの工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室は馴染みのタンスや家族の写真、また位牌などを置き、その人なりの居心地の良い部屋作りをしている。</li> <li>・衣替えは、状況により居室担当職員が一緒に行い、衣類や蒲団類を倉庫に預かっているケースもある。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フルフラットのフロアは整理整頓を心がけ浴室にも手摺が設置されている。トイレは1箇所、車椅子用トイレが設けられている。職員が注意を払い出来る事は時間がかかっても見守り、出来ない場合はさりげなく声をかけ設備を利用した自立した生活を第一に考えている。		

事業所名	グループホームウェルケア新羽
ユニット名	新羽1丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念（一人ひとりを尊重し、明るく家庭的なゆとりある生活）を掲げ、理念が常に介護現場で活かされるよう個別支援のありを会議の場で話し合いをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し、散歩の際には地域の方々と気軽に挨拶を交わし、近隣の小・中学校の生徒との交流を行い地域とのつながりが利用者の楽しみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緑道の整備に来られた近隣の方々、ボランティアの方にお茶を飲んで頂き交流を深め ホームで過ごされる利用者の支援の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同地域同法人のグループホームと合同で開催している。運営や課題について評価・助言をいただき運営に反映するよう検討し実践している。又グループホーム間でのサービスの実際等を聞く事によりサービスの向上に活かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区のケースワーカーと利用者の暮らし方を相談し助言を得ている。区のグループホームブロック会に参加し区の担当者から介護保険情報や区の取り組みなどの話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を会議の場で話しており、過去にも身体拘束をしたことはない。外出をしたい方にはその都度付き添い対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議にて管理者より利用者の処遇について話があり、虐待防止の徹底をしている。職員も虐待の研修に参加し職員同士が注意しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し会議にて報告している。入居相談の際に状況により話をしている。現在必要性のある方はいないが、継続的に制度の勉強を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書にわかりやすく権利、義務を明示し入居する前の面接及び入居時に丁寧に説明し本人及びその家族に理解同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望を聞くための意見箱を玄関に設置している。家族の面会時には要望や意見を聞きケアプランに反映するようにしている。又家族会での意見交換や必要に応じての家族カンファレンスでケアに対する意見を聞き反映している。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で職員と意見交換し意見や提案を反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を大切にしている。法人内の勉強会への参加など法人の資源を活用し向上心が維持できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人介護保険老人保健施設・グループホームとの合同コンピテンシーを実施、外部研修（ブロック会）に参加し向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会のブロック会に出席、運営推進会議に同地域のグループホーム管理者を招くなどして情報交換・収集を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集を十分に行い本人の希望や要望を把握し環境に慣れるためのプランを作成。生活の様子を職員が寄り添い把握し不安がないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、必ず本人面談を家族同席のうえ実施し、積極的に家族との関わりを持ちながら利用に結びつけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で状態に応じグループホームでの支援以外の施設サービスを提案するケースもある。状態、希望、家族環境を軸に的確な支援を考えグループホーム入居、在宅サービス、他の施設サービス入所かを良く相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の声掛けや、自発的「手伝おうか」に家事（食器拭きや洗濯物干し、洗濯物の取り込み、掃除等）を行っていただいた時にはねぎらいの言葉をかけ感謝の気持ちを伝えている。昔の話や生まれ育った故郷の話や聞いた話、礼儀の説教を受けたり、職員も一緒に過ごす喜びを感じている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際には家族も招待し利用者、職員と一緒に楽しんでいる。毎月、報告書にて近況を報告し、状態の変化がある時には電話で様子を伝え介護方法を伝え相談し時には家族に手をかりて理解を得ながら支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との電話での会話や、年賀ハガキ、ハガキによる近況を希望により行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌の会（毎週）、誕生会、家族を招待してのクリスマス会、秋祭り、外食等を皆で楽しみの機会を設けている。日常の散歩や家事等を行う中で職員は利用者の中に入り交流の機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族への十分な説明・納得いただきながら退去先の支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動から一人ひとりの希望や思いを把握している。コミュニケーションが困難な場合は表情や仕草で判断し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族に説明を行い本人が以前使用していた家具や馴染み深い物を持ち込んで頂くようにしている。また本人、家族より生活歴や直近の様子を聞き把握し必要に応じサービス利用の事業者より情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い記録している。日々の利用者の精神状態・心身状態を観察し、申し送りにて情報を共有している。活動性の低下に十分注意をはらい一日を安全安楽に過ごしていただくように見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を家族、職員と話をし6ヶ月ごとに見直ししている。急な変化が見られた場合はカンファレンスにて検討し見直ししている。(必要に応じファミリーカンファレンスを行う。)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活確認表、ケース記録を毎日、一人ひとりの様子を具体的に記録している。月に一度気づきをもとに全利用者のカンファレンスを行い1ヶ月後評価し介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の重度化に対応するため外部研修(法人内)を行い実践している。そして訪問看護師とも協働し医療の必要度が高くなった場合も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内にて地域の合唱団のコンサートや中学生の課外実習の受入、特別支援学級の小学生との交流、地域から運動会、バザーの催物へのお誘いを受け楽しみのある生活の支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望により応じているが、現在は全員が家族の納得と同意のうえで協力医療機関で受診している。急な体調の変化や専門医への受診が必要な場合も職員が通院の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の介護老人保健施設の看護師へ相談、契約訪問看護ステーションの看護師とはいつでも連絡がとれ相談、訪問対応をしていただいております。週一度以上は訪問による健康状態の管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に職員がホームでの生活状況を伝え、病状経過をの説明を十分に行い、家族と治療方針や退院の目処を聞き、病院の医師、家族、訪問診療医、訪問看護師と状態の相談をしながら早期退院ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針を定め本人及び家族に説明し同意を得ている。本人、家族、訪問診療医師、訪問看護師、介護者が指針に基づき共通したケアの考え方をもち、連携を取りながら支援していく体制が整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人のグループホーム研修で急変時、事故発生時の対応をテーマに取り組みを行った。訪問看護師も参加しマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練（通報、消火、避難）を行っている。（1回は夜間想定）地震の訓練も同時に行い直近は11月に実施した。消防署の立会いをお願いしている。法人内で災害時マニュアルがあり同地域にある同法人事業所と協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念と、笑顔で心地よい言葉かけを心掛けている。利用者の個性を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一律に同じ事をせず、個々の意思に任せた生活を送っていただいている。介護者は日常の中から本人の行いたい事を見極め支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者の希望により、散歩、昼寝、TVを見たり個々のプランターの花の手入れ、体操やゲームをしたりしている。散歩は天候により行けない事があるため室内で出来る事を考え納得いただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れ、汚れがある場合は、自尊心を傷つけないように気配りをし、居室で直すなど配慮している。外出の際は好みの服に着替えおしゃれをして出かけている。訪問理美容を利用するなど身だしなみには気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑でとれた野菜や利用者希望の季節の食べ物（おはぎ・手づくりお団子・お赤飯）行事食おせち・七草粥・紅白饅頭・ご当地のメニューの沖縄ソーキソバなどが食卓に並んだりして楽しい食卓です。食器拭きのお手伝いをお願いし職員と一緒にいきます。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量はチェック表に毎日記録している。献立は法人内の介護老人保健施設の管理栄養士が作り、主菜は施設より配食され栄養バランスの取れた食事を提供している。嚥下、咀嚼状態によりお粥、やわらか食、ソフト食、トロミ等形態を代えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、歯ブラシが使えない方には、ガーゼ・スポンジを使い介助している。歯科衛生士の助言にて口腔内が柔らかくなり飲み込みがスムーズになるようアイスマッサージを実施し効果（2名）を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により把握する事で定時のトイレ誘導を行いサインや仕草を見てトイレ誘導など自立支援をしている。声掛けによる失禁の軽減を図り、リハビリパンツから綿パンツに変更できる支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操等の運動、下剤の内服のみに頼らず、水分摂取、牛乳、ヨーグルトを使った食べ物で工夫している。また便座に座られた時、お腹をマッサージしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調を考慮しながら最低週2回以上の入浴を行っている。立位、座位の取れない方には職員が2人対応し、体調不良等で入浴ができない場合には清拭や足浴にて清潔の保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクリエーション、体操、入浴等で生活のリズムをつくり、活動性を上げ安眠につなげている。昼食後は休息の時間を設けそれぞれ自由に居室で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個人服薬情報があり、職員は随時確認している。また処方に変更がある場合も申し送りを徹底し確認している。服薬マニュアルがあり与薬には十分気をつけている。薬ケースに変更した薬の名前、効能のメモを貼り周知し、申し送りノートに記載し確認しサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物をたたんだり、食器拭きを行っていただいている。プランターの花の水やり、週1回歌の会、月一回の音楽療法を行い楽しめる時間の提供をしている。又利用者同志で手作りのホットケーキ、団子、おはぎ、わたあめを作り喜んで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外気浴や近隣散歩を行っている。利用者の希望に応じ買い物、地域で行う行事（運動会やちびっ子相撲、移動動物園等）に、法人内の介護老人保健施設で行われる音楽コンサートに出掛けたり納涼祭、秋祭りには家族と参加し楽しんでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了解を得てホームで管理しているが買い物に行った時には、個々にレジ等で支払いを行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	新羽2丁目自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を必要に応じて利用していただいている。年賀ハガキ、ハガキ、切手をホーム内に用意し、本人と一緒に手紙の投函等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間兼食堂の共有空間は家庭的で壁には昔なつかしのポスターや塗り絵があり季節ごとの装飾品で季節感を採り入れている。床暖房設備、加湿器を設置し、心地よく過ごせる家庭的な雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や椅子、テーブルの配置を工夫し個々に心地良い居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者好みの、寝具、箆笥、机、椅子、鏡台、一人一人思いのものがあ、家族とも相談しながら居心地の良い部屋づくりをしている。ドアを開放しても部屋の中が見えぬようお気に入りの色ののれんをかけるなどの工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フルフラットのフロアは整理整頓を心がけ浴室にも手摺が設置されている。トイレは1箇所、車椅子用トイレが設けられている。職員が注意を払い出来る事は時間がかかっても見守り、出来ない場合はさりげなく声をかけ設備を利用した自立した生活を第一に考えている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名：グループホームウエルケア新羽

作成日

平成26年2月4日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	日常生活動作の高い方、低い方の差があり、各自の希望に沿った支援の改善。	行事を増やし内部で楽しめる支援を行う。 外出等ホーム外での個別支援を実行する。	地域センターや同法人内のアクティビティーを利用する。	6か月
2	13	防災訓練を年2回行っているが、ご家族様、利用者様、職員様で行っていた	地域の方に防災訓練のお知らせを配付したが参加されなかった経緯があり、休日に防災訓練を行うことを計画する。	近隣の寺院にお願いに行ったところ承諾を得た。	6か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。